

「彼の義体カラダ 紹介文」

岡和田晃

『エクリップス・フェイズ』日本語版翻訳監修者の朱鷺田祐介の新作「彼の義体カラダ」をお届けしよう。

「彼の義体カラダ」は『エクリップス・フェイズ』での日常を切り取ったショートショートで、これまで「SF Prologue Wave」での朱鷺田祐介の『エクリップス・フェイズ』小説に触れたことのない読者にとっては、またとない入門となるかもしれない。

これまで解説で何度も書いてきたが、必要とあれば義体キョウブを取り替えることができる、というのが『エクリップス・フェイズ』の大きな特徴である。もちろん、相応の費用が必要だし、義体適合テストをはじめ、まったくリスクを負うことなく、義体を再着装することはできないが、それでも、義体は『エクリップス・フェイズ』のポストヒューマンSFらしさを規定するうえで、きわめて重要なファクターとなっているのは間違いないだろう。

面白いのは、この作品では「彼の義体」カラダが彼のオリジナルではない、ということだろう。リリカルな語りのおびしさが、この事実によってさらに強調された形になる。

舞台の火星は『エクリプス・フェイズ』ファンにとってはお馴染みだろう。この星でもっともひと目を引くランドマークが、楕状火山であるオリンポス山だ。その山頂には、宇宙エレベーターがある。

このオリンポス山は地球のハワイ島に似ているが、現在は死火山。標高はなんと、約27,000メートルに及び、太陽系でもっとも高い山とされる。

朱鷺田祐介は、『エクリプス・フェイズ』と並ぶサイバーパンクRPGの雄、『シャドウラン』の日本語版翻訳監修者としても著名である。

『シャドウラン』は上級ルールブック『アンワイアード』、そして『ランナーズ・コンパニオン』の日本語版が発売され、ますます盛り上がっている。